

第2期広島市立大学塾活動報告【6月26日】

国際学部国際学科2年

池田 千夏

6/26の市大塾では、広島平和記念資料館 副館長 兼 啓発課課長の浜岡さんをお招きして、「被爆体験継承と平和学習の取組について」のお話をいただきました。広島平和記念資料館設立の経緯や、条例、運営、組織構成などの説明、抱えている問題や現在の活動状況など、普段は決して聞けないようなお話をお聞きすることができました。

塾生たちからは、海外の博物館との比較や違い、協力体制などについての質問が多く出ました。広島に平和学習に訪れる外国人が多いことから、海外からの目を大切にしていかなければならないことはもちろんです。ですが、浜岡さんのお話を伺って、より積極的に海外に伝えていくことの重要性を感じました。現在、広島平和記念資料館では、海外での原爆展や平和展などの企画に力を入れているそうです。海外からとなると訪れることができる人は限られてしまうので、出張展示は必要不可欠であることは明らかです。むしろ、海外の方が平和学習に需要があるのではないかと思います。「何を、どこに、どうやって、伝えるのか・必要なのか。」考えさせられました。

加えて、私は広島の特別さを実感しました。浜岡さんによると、広島平和記念資料館は平和を題材とする博物館のなかで群を抜いて優れているそうです。なぜかと言うと、やはり世界的に有名な平和都市:広島だからでしょう。そして、その広島市の大学で学ぶ私たち。やはりそこには特別さを感じ、どこか義務感のようなものを覚えました。こうして平和学習を受けている私たちにしか出来ないことを見つけたような気がしました。

